

来て!見て!知って!文化財

御詠歌が刻まれた二つの額

—巡礼の旅の歴史—

熊谷市指定有形文化財(彫刻)の「正福寺の額」と「金蔵寺の額」は、大里地域に所在する正福寺(沼黒)と金蔵寺(中恩田)において保管されている木製の額です。この二つの寺は江戸初期に開基し、吉見郡今泉村(現、吉見町)にある金剛院の末寺でした。額の冒頭には札所や霊場めぐりの寺となっていたことが示され、額の全体に、短歌として表現された御詠歌が刻み込まれています。正福寺の額には「三十四所 才二十二 沼黒 正福寺 のりのみち むすぶえにしは あさくとも もらさぬちかい ふかきぬまぐろ」、金蔵寺の額には「三十四所 才二十三 恩田 船松山 金蔵寺 春秋のときおもわかず かのきしべ わたすちかいの のりのふなまつ」と刻まれています。仏道の教えや願いが込められた詩歌は、旅人や参拝者によって音の旋律が加えられ、情緒的

に唱えられていたことが想像できます。

なお、額に示される三十四か所の札所についての記録は現在残されていませんが、御詠歌の文字は巡礼する人々の心に深く刻まれ、次なる旅に向けての勇気を与えていたことでしょう。二つの額は、巡礼の旅を示す証であると共に、当時の民衆信仰を示す貴重な資料であると言えます。

◆江南文化財センター 048-536-5062



正福寺の額



金蔵寺の額